

# 今シーズンの除雪体制は

「市民と語る会」が毎年市内各地で開催されていますが、60年度中に出された要望の中で、道路舗装、側溝の整備、除雪などの問題は全体の半数以上を占めているということです。これは、道路・交通問題に対して市民が高い関心を持っている証明だと思えます。すでに除雪活動が始まっていますが、雪本番はこれからです。

1月20日、市役所土木課を訪ね、除雪体制等についてどのようにになっているのか、その対応・対策について伺いました。



## 降雪15センチで除雪車出動

(問) 除雪機械の台数と除雪の総延長キロ数はどのくらいですか。  
(答) 市所有の十一台と除雪委託業者七十八台、計八十九台で昨年より四台多くなっています。除雪計画路線は、三百七十二キロとなっています。

(問) 降雪十五センチで除雪車が出動すると伺いましたが。  
(答) 十五センチを目安としていますが、道路状態によって、それ以下でも出動させることもあり、また、各地域によって降雪量が異なるので、各地域から降雪情報を集めて出動指令を出しています。

(問) 十五センチ、二十センチの降雪量では対応できるとしても、大雪の際の対策はどうでしょうか。  
(答) そのようなときは、除雪計画路線三百七十二キロのうち、主要道路百六十キロについて先に除雪し、その後残り路線を行うことにしています。

## 委託業者への除雪指導は

(問) 委託業者への除雪指導等についてはどのようにしていますか。  
(答) 降雪期前に、委託業者と除雪方法についての打ち合わせ会議を行っているほか、除雪車の出動指令をしたときにはその時間帯に、それ以外は日中に巡回しています。

(問) 市道除雪で、地区によっては粗末なところもあるという話を聞いたことがありますか。  
(答) 借り上げた除雪車は、グレー

ダ、ドーザ、ローダ、ロータリー車などがあり、車種によって若干の差異はありますが、粗末な場合は手直しをさせています。

(問) 雪が降っていないのに除雪車が出動している、という投書が新聞に載っていましたか。  
(答) 雪が降っていないときでも、除雪した道路の拡幅のため出動することがあります。

(問) 委託している除雪車が故障した場合、その車が担当している区域の除雪はどうなりますか。  
(答) 近くの区域の除雪車をまわし、出勤時間前には除雪するようにしています。

## 道路を広く使えないか

(問) 雪で側溝が隠れるため、車を側溝に落としている人を見かけますが、側溝にふたを付けることはできないのですか。  
(問) 側溝は建設省で除雪してありますが、市道の除雪との関係はうまくいっていますか。  
(答) 国道と市道の除雪区分がありますし、その交差する地点で段差

## 広報市民レポーター

斎藤 久 (片山1丁目)



▲土木課長(右)に取材する斎藤レポーター(左)

## 除排雪の方法は

(答) 側溝の構造上、ふたを敷設することができない所がありますので、ご理解をお願いします。  
(問) 電柱のため道路が狭くなっていますか、このことをどう考えていますか。  
(答) 電柱は確かに道路を狭くしています。道路から電柱を移転するには、移転先の地権者の協力が得られればできます。

(問) 道路を閉鎖して除排雪を行うときはどのようにしていますか。  
(答) 交通量の少ない時間帯に、通行止めの標示をしたり、片側通行にしたりしています。  
(問) 国道は建設省で除雪してありますが、市道の除雪との関係はうまくいっていますか。  
(答) 国道と市道の除雪区分がありますし、その交差する地点で段差

## きめこまかい除雪計画を

が生じた場合は、後で除雪に來た方が取り除くことになっています。このように、今シーズンの除排雪は、万全の体制と対策のもとで進行中であるとの回答でした。除雪の体制と対策は十分のようですが、雪本番となれば思わぬ事態が発生したり、障害が出たりすることがあります。

昨シーズンの例だと、道路を閉鎖しての除排雪の際、通行止めの標示板があまりにも現場近くだったので、知らずに進入して來た車が後続車で戻るに及ばず、交通が混乱したということがありました。このようなことのないように、きめの細かい計画が必要だと思えます。

また除雪した雪が歩道に飛び、歩道が雪塊の山となり、通勤・通学者が自動車を気にしながらヒヤヒヤして歩く姿は「歩行者地獄」です。安全な歩行、安全な運転のためにも、歩道の除雪対策に早急に取り組んでほしいものです。これからは、降雪量が多くなります。市の除雪体制に期待することとは当然としても、市民の側としても、屋敷内の雪を道路に出したり、除雪車の作業を阻害するようなことはやめて、市民と市がいっしょになって雪を克服しなければならぬと感じました。

◆「広報市民レポーターだより」は、6人のレポーターが独自に取材した記事を掲載しています。